

アートラボあいち自主企画展

斉と公平太 「グスタフ・フェヒナーもしくはベンハムの独楽」

Saito Koheita / Gustav Theodor Fechner or Charles Benham's top

直径4メートルの独楽こまを作まって回まわす。

2018 7/6 金 — 8/26 日  
開館日時 | 金・土・日・祝 11:00 - 19:00

[アーティストトーク]

2018年7月6日 金 17:00 - 18:30 (参加無料、予約不要)

主催 | あいちトリエンナーレ実行委員会

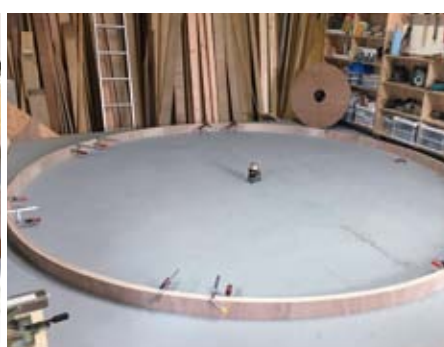
[撮影 / 城戸保]

ART LAB AICHI



愛知県を拠点とし、様々な表現手法や媒体を用いて多彩な活動を展開する齊と公平太の個展を開催します。近年では中日新聞プラスで月間連載する少しブラックなユーモアが効いた、独自の着眼点から社会を考察する記事などがあります。また、ご当地キャラとして名を馳せるオカザえものの作者でもあります。現代美術というジャンルに囚われず、しかし物事の価値の在り処を問う現代美術だからこそ可能な広がりをもつ活動です。

今回は、タイトルからも想起されるように巨大独楽（こま）を作成し、展示室でその独楽を回転させるという衝撃的な作品となります。錯視の研究に迫り、入念なりサーチとスリリングな出会いの過程を追った前作《オオウチ錯視の作者を探す旅》を引き継ぐように、本展でも認知科学、心理物理学、そして芸術の接点を独自のユーモアを持って探求します。



独楽制作：ミラクルファクトリー

齊と公平太 (Saito Koheita)

1972年生まれ。1994年頃から美術作家として活動をはじめ。絵画やインスタレーションによる作品発表の他、近年では、オカザえもののデザインや執筆活動などもおこなっている。執筆活動に、中日新聞プラスにてコラム『芸術は漠然だ！～齊と公平太のムダに考えすぎ～』（2017年6月より連載中）。

この作品は、

「直径4メートルのペンハムの独楽を作って回す。」

というものです。

「ペンハムの独楽」は白黒の模様が回転すると色がついて見えるという昔からある定番の独楽です。

このチラシを作成している時点で、

まだこの巨大な独楽は完成しておらず、

本当に回るかどうかやってみるまでわかりません。

7月6日から はじまるこの展示に来ていただければ、

回すことができたかどうか、

事の顛末がわかると思います。

齊と公平太

(2018年5月28日 月曜日に記す)



[完成予想展示模型]



アートラボあいち ART LAB AICHI

11:00 - 19:00 (金・土・日・祝)

名古屋市中区丸の内三丁目 4-13

(愛知県庁大津橋分室 2階・3階)

TEL&FAX (052) 961-6633

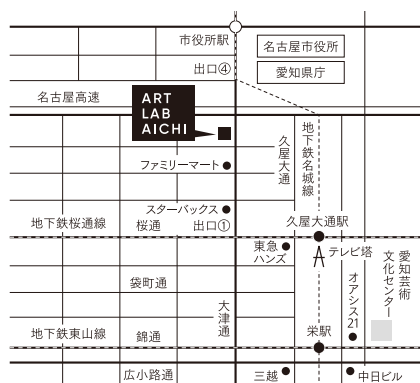
E-mail : ala@aichitriennale.jp

公式 Web サイトアドレス : <http://aichitriennale.jp/ala/>

[アクセス]

地下鉄名城線「市役所」4番出口より徒歩5分

地下鉄桜通線・名城線「久屋大通」1番出口より徒歩8分



平成30年 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業